

# 1年 学年通信

2017/6/30 第8号

文責 高野晶子

## 教育実習の先生方からメッセージが届きました

### ★柿谷啓樹先生から皆さんへ★

「1年生のみなさん、おはようございます！」この手紙がみなさんのお手元に届くときには、もう朝ではないかもしれませんが、改めまして、教育実習生の柿谷啓樹（かきたにひろき）です。私は、先月の5月29日から6月16日の3週間、みなさんの「先生」として、学校生活をみなさんと共に過ごしました。生駒中学校のみなさんは、私があいさつをすると、いつも元気なあいさつが返してくれたので、すがすがしい気持ちで過ごすことができ、毎日が楽しかったです。

さて、みなさんとは2週間、1組、2組、5組の3クラスで、数学の授業をさせていただきました。みなさんどうでしたか。いろいろな感想があるかと思いますが、私は教壇に立ち、みなさんの前でたくさんの間違いをしました。しかし、そんな授業のなかでも、私の説明を理解しようと、質問対しても積極的に手をあげてくれたり、発言をしてくれたり、授業に一生懸命に取り組んでくれたことは素直に嬉しかったです。そして、未熟な私のことを「先生」と呼んでくれたこと、本当に感謝しています。

最後になりますが、みなさんは、これから様々な経験を積んでいくことでしょう。そのなかで、失敗もたくさん経験すると思いますが、苦しいことから逃げずに、困難を乗り越えられる力を身につけていってください。何事にも努力をし続けることが大切です。部活動や勉強など、仲間たちと切磋琢磨し合いながら、自分の夢や目標に向かって歩いていってください。自分を支えてくれている人たちに感謝することも忘れないようにしてください。1年生のみなさんへ、今しかない中学校生活を精一杯に楽しんでください。

### ★鎌倉祥太郎先生から皆さんへ★

三週間という短い間でしたが、本当にありがとうございました。この生駒中学校でみなさんとの出会い、大学や普段の生活では経験できない様々なことを身をもって体験させていただきました。みなさんには、感謝の気持ちでいっぱいです。

三週間前、教育実習で来る前は緊張と不安でいっぱいでした。しかし、教育実習初日、学校に来る

と生徒のみなさんの温かい歓迎を受け、そこで一気に緊張や不安が解けました。温かい歓迎というのは、具体的に言うと「あいさつ」です。みなさんは、清々しいとても心地の良いあいさつができていると感じました。そのあいさつは、皆さんの美点であると思います。これからもそのあいさつで学校全体を明るくして行って下さい。

そして、1年生のみなさんにはたくさんのお礼をいわなくてはなりません。私の拙い授業を真剣に聞いたり、受けたりしてくれてありがとうございました。ほかの先生方に比べると様々な欠陥があったにも関わらず、真面目に授業を受けてくれたこと、本当に感謝しています。また、休み時間などにたくさん話をしてくれてありがとうございました。

私はこれからも夢に向かって努力し、実現のために教育実習での経験を活かしながら頑張っていこうと思います。そこでみなさんに伝えたいことは「夢を持つ」ということです。大きな夢を持って下さい。みなさんには無限の可能性が 있습니다。それを自覚し、自信をもってこれからの学校生活を送って下さい。

最後に、みなさんと出会えたことを本当に嬉しく思っています。ありがとうございました。



卒業生が教師になることを夢に実習生として帰ってきてくれる…いつも本当に嬉しく頼もしく思います。頑張ってください。

## 7月の予定 早いですね、もう1学期も終わりです

日	曜日	行事	日	曜日	行事
28	水	期末テスト 給食ナシ	10	月	
29	木	↓ ↓	11	火	
30	金	↓ 部活動再開	12	水	
1	土		13	木	球技大会（午前）大掃除、給食最終
2	日		14	金	学年集会、三者懇談（午後）
3	月	壁新聞発表会（学級ごと）	15	土	
4	火	2・3限 人権学習講演会	16	日	
5	水	壁新聞発表会（学年）	17	月	海の日
6	木		18	火	三者懇談（午後）
7	金		19	水	三者懇談（全日）
8	土		20	木	終業式
9	日		21	金	

## 「ふつうのままで」を視聴して PART II

★ 障害者の気持ちを感じたことはあまりありませんでした。今回のビデオを見て、一つ強く思ったことがあります。それは、毎日どのような思いで生活を送っているのかです。お二人とも手や足が不自由で車いすの生活、外へあまり出たことのない不安の気持ちがある中で、外へ出て人に声をかけて、生活するためのお手伝い（ボランティア）をお願いしているのを見て、すごく心が強いなと思いました。またそれに対応してボランティア参加をしている人がいて、お二人の気持ち、思いを分かっている人がたくさんいるんだと思いました。他にも地元の高校生も参加していました。一つもいやな顔をせず、積極的に動いていて、とてもかっこよかったです。夜間中学校で勉強していると聞いたとき、正直なんで勉強するんだろ？ と思いました。でも、お二人は子供のときから外に出ておらず、学校にも行けていなかったのです。一人で外に出れるようになると、親に勉強をしたと言った思いがとても心に残りました。本当に心が強く、かっこいいなと思いました。そんな二人の間に生まれた子どもは、とってもたくましい大人になりそうな子でした。小学校入学式の日、もっと大きくなったらお父さんとお母さんの手伝いをしたい、助けてあげたいと言っていました。まだ6歳なのに。やっぱり、お父さん、お母さんが苦労しているのを見て、育ってきているんだなと思いました。障害者だからといって、差別することはおかしいと感じました。毎日毎日、苦しい思いをしていますが、楽しいことが待っていることを信じてがんばっているお二人のような人からです。

★ 私は今日 DVD を見て、おどろいたことや素敵だなあと思ったことがいくつかあります。まず、私は隆二さんと弘子さんの、昔は一步も家を出ていないという言葉に大変おどろきました。なぜなら、私が一步も外に出ず、学校にも行かないなんて想像もつかないことだからです。外に出て遊んだり学校で友達と話したり、とっても楽しいことがお二人にはできなかったと思うと心が痛くなりました。でも、DVD の様子を見ると、今は一人で出かけて周りの人に助けてもらいながら買い物や夜間学校に通う姿があり、あきらめず毎日楽しく過ごしているのが本当にすごいなあと感動しました。しかも、町の人にしっかりあいさつしたり、「車いすを押してください」と伝えたり、私なら勇気が出ずできないことができていて、尊敬すべき部分がたくさんありました。お二人は自分が障害者でつらいことがたくさんあるはずなのに、隆二さんの「障害者じゃない自分が想像できない」という言葉を聞いて、障害をもたずにうまれてきた私たちだけが幸せなのではなく、障害をもつてうまれたからこそ、いろんな人とふれあって素敵な生活を送り、私たちと同じくらい、もしくはもっと幸せなんじゃないかなあと思いました。私は今日 DVD を見て、障害のある方のことを知り、あらためてとても苦労しているんだなあと思いました。また、それと同時に藤本さん夫婦が努力している姿を見て、本当に素敵で楽しい家庭だなと思いました。私は今まで、正直障害をもつ方をさがち

でした。でも、そういう人たちも私と同じでふつうに暮らしているんだなと知り、少しでも力になりたいと思いました。なので、これからは障害で困っている人がいたら必ず助けて、藤本さんのような人たちが暮らしやすい町をつくってあげたいなと思います。

★ 「自分を主張する。」 この言葉が一番印象にのこっている気がします。ぼくは、障がい者からの目線・気持ちを初めて聞いたと思います。この初めて聞いたものの中に、「自分です」というものがありました。ぼく自身、小さいころ、何かをするときには自分でやりたがっていたそうです。この、小さいときの「僕」の気持ちと全く同じなのかどうかは分かりませんが、僕は自分で何かをできるということに、たくさんの人、ほぼすべての人が、「喜び」を感じていることが多いのではないかと、今回の DVD を見てより感じました。僕は、障がい者のことをほとんど知りませんでした。そして、今回の DVD により、今までほとんど知らなかったのだとより深く思い、知っていたことの中にも、現実とは少し違っていたもの、知ったつもりになっていたものなど、いろいろありました。しかし、今の自分にほこりを持って生きている人がいることを知りました。僕の家近くにも障がいを持った中学生が住んでいます。その人に、僕は小さいころよく遊んでもらっていました。「障がい者」とは言うけれど、同じなのだとしっかり思いました。

★ 今日の人権学習を通して、改めて感じたこと学んだことがたくさんある。まず障害者についてなのですが、自分はたまに、障害者は普通の人とは違うとってしまうこともある。けれども、障害を持っている人も自分と同じ一人の人間なのだから、そういう考え方は捨てなければならないと思う。それでも、やっぱり社会に出るとなると、障害者の方が不便なことは多いと思う。そこは、周りの人が立助けてあげれば良いと思う。次に、差別用語のことなのだが、そもそもそのような言葉をつくったのは誰なのでしょう。キチガイやガイジなどは、この言葉をつくった人が、その人のことを差別的な観点からみているからできたんだと思います。明治時代に四民平等という制度ができたのに、今となっては平和主義の世の中に向かっているのに、そういう差別的な見方をしているから、世界平和にいつまでたってもならないんだと思います。最後に、これからの社会の在り方についてと、自分の未来についてなのですが、障害者と共存していく社会、差別などをどんどん無くしていく社会、人権が大切にされていく社会になってほしい。特に障害者については、このクラスに Aくんがいるので、より深く考えることができます。僕は障害をもっている人を、尊敬している。自分が社会からして不利でも、たくましく生きているからである。僕はこれからも障害者を助けていき、自分がどんなに苦しい状態でも胸を張って生きていこう、ということを決意した。